

本日のテーマ：グローバル化社会

本日は益々進むグローバル化問題を取り上げてみます。近年の関税等障壁の排除、また、中国を中心とするBRICs諸国の経済発展等により、貿易が拡大し、物品の国境が益々低くなっています。さらに、インターネットの利用者数の大幅な拡大を受け、情報の国境は急激に低くなっています。

このような変化が、企業活動にどのような変化をもたらすのか、考えてみたいと思います。

「キーワード」

グローバル化社会を従来の社会と比較する際のキーワードとはいかなる言葉なのでしょう？

- ・ルールや価値観の明確な社会
⇒ ルールや価値観の錯綜する社会
- ・安定社会
⇒ 不安定社会

このような社会はよくジャングルに例えられます。すなわち、「ルール無き、弱肉強食の社会」です。

この頃の企業活動で特徴的な現象は、世界的な強者連合企業の誕生です。従来の国内での覇権競争ではなく、国際的な覇権競争、更には、自社製品のグローバルスタンダード化を目的とした製品連合と、日々変化が発生しています。

このように変化の激しい世の中を生き抜くための方策とは、まさに、「チャールズ・ダーウインの進化論」の出番ではないでしょうか？

- 1) 自然界の生物は多種・多様であってこそ共存共栄し得るのであり、単一あるいは同種・少数種の寡占では結局はその種族の維持さえも困難になる。
- 2) 生き残ることができる生物種は、最も強いものでも、もっとも賢いものでもなく、最も環境の変化に敏感で、柔軟に適応したものである。

「必要とされる能力の変化」

このような変化の時代に必要とされる能力は変化していきます。どのような能力が要求されるのでしょうか？

- ・安定型社会に要求される能力
⇒安定維持能力
- ・変化の激しい社会で要求される能力
⇒変化への対応能力
- ・変化の激しい社会をリードできる能力
⇒創造的革新能力

「利益源泉の変化」

また、BRICs祖国の台頭により、これらの国々との

生産の分業が進み、先進国で活動する製造業企業の利益の源泉が変化しています。

- ・物不足型社会（少品種多量生産型社会）
⇒ハード（資本、設備）が利益源
- ・物充足型社会（多品種少量生産型社会）
⇒ソフト（知識）が利益源
- ・ソフト充足型社会（独創的革新希求型社会）
（従来に無いものを求める社会）
⇒独創性が利益源

日本もいよいよソフト充足型社会に近づきつつあります。このような社会で必要とされる「独創性」、如何に育み、組織に根付かせるか重要な問題です。

「BRICs 諸国の経済力」

次ページに2003年のBRICs諸国の主要経済指標を提示します。当然、現段階では「GDP総額」や「一人あたりGDP」は米国や日本に比較し、少ない額です。ただその成長率は侮りがたいものがあります。

また、貿易額の対GDP比を見ますと、日本に比べ、他の国々は大きな数字となっています。これに比較し、日本の貿易に依存する比率が小さいことに意外性を感じます。

さらに、気になる数字として、直接投資受入額の対GDP比率は、日本の場合かなり小さいです。

英国などは国内の活性化の手段として、他国籍企業の積極的受入れを進めています。それに伴う異文化との融合を国内活性化の一手段として評価しているとのこと。



中上義春画像
白浜エネルギーランド
似顔絵ロボット作品
(1990年9月)

(有)関西中小企業研究所
代表取締役 中上義春 (Nakaue Yoshiharu)
(中小企業診断士)
大阪府泉南郡岬町淡輪 1694-85
TEL/FAX 0724-86-5182

E-mail : bkaio518@rinku.zaq.ne.jp

<http://www.rinku.zaq.ne.jp/bkaio508/01.htm>
